

内底に、スポンジをはり、床との接触面には、手芸用の滑り止め剤(ハマナカ・ストップル)を付けた。

これらの改良により、前述の条件に沿った履き物が出来、患児(者)の歩行状況は、以前より改善された。

しかし、これらは、防水性に欠けるため、室外の使用に耐えないなど、検討の余地が残されている。

今迄の履き物に対する既成の概念に、とらわれることなく、幅広い分野に眼を向け、有効な材料を使用して、歩行不能となった患児(者)の保温を目的とした履き物も含め、今後も試作、検討を重ねたい。

## 15. 洋式腰かけ便器えの立ち上り装置の試作研究

国立療養所松江病院

三 島 昌 中 島 敏 夫

PMD患者では、登はん性起立、坐位からの起立、腰かけからの起立が順次困難更には不能となる。

腰かけ便器からの起立が不能となる時期から、普通より坐の高い腰かけからであれば、支持物につかまっても介助なしで(以下自力という)起立ができる時期までの間、自力で排泄することができれば、患者にとって幸せであると考えられる。

そこで、患者が腰かける便坐の高さを、患者自身の操作によって自由にセットできる装置を試作した。以下図1、写真1及び2を参照されたい。

DC16Vプリントモーター(①)の回転は送りねぢ(④)に伝えられる。この送りねぢには雌ねぢ(⑥)が組合わされ、送りねぢの回転にしたがって雌ねぢは上下に移動する(モーターの正回転によって上昇し、逆回転によって下降する)。この雌ねぢに便坐取付用金具は上下案内用支柱(②)とベアリングによって組合わせられる。便坐(⑤)はベニア板(⑦)を用いて便坐取付用金具に取りつけられる。モーターの始動及び便坐が自動的に止まる高さのセットは、リリーススイッチを用いることによって、極めて弱い筋力でも操作できる。またモーターの回転数にしたがって便坐の昇降の速度は、あらかじめ抵抗器を用いて適当にセットされる。

患者はまず、便坐の高さについて、自分が自力でそこに腰かけたり、そこから起立できるところにセットする。腰かける。モーターを逆回転にセットする。モーターONボタンを押すと便坐

はゆっくり下降して便器にあると自動的に止まる。排泄する。事後処理をすます。モーターを正回転にセットとする。モーターONボタンを押すと、便坐はゆっくり上昇し、患者自身によってセットされた高さで自動的に止る。起立する。

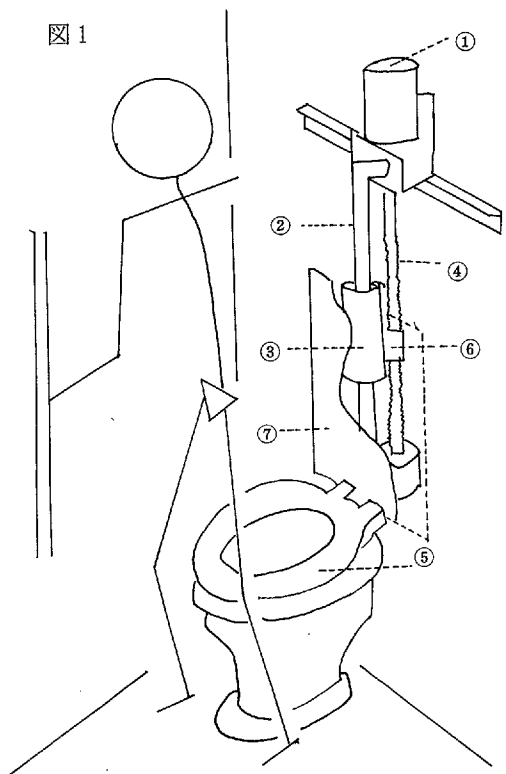


写真1 (便坐は下にある)

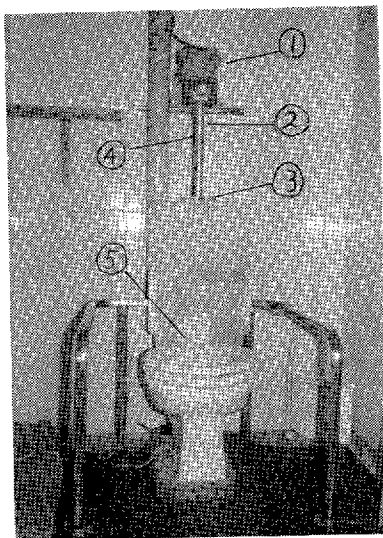
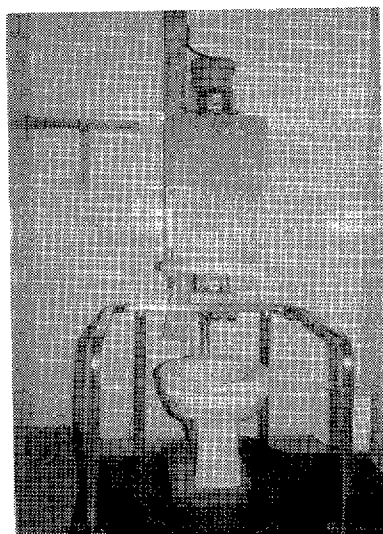


写真2 (便坐は上にある)



#### 仕様

- 1) 腰かけ便器(既成品)高さ 400 mm
- 2) 便坐の上下の移動範囲 330 mm
- 3) 便坐の昇降速度 0~800 mm/分
- 4) 操作ボタンは手摺に取りつける。

↓  
**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります  
↓

PMD 患者では、登はん性起立、坐位からの起立、腰かけからの起立が順次困難更には不能となる。

腰かけ便器からの起立が不能となる時期から、普通より坐の高い腰かけからであれば、支持物につかまってでも介助なしで(以下自力という)起立ができる時期までの間、自力で排泄することができれば、患者にとって幸せであると考えられる。

そこで、患者が腰かける便坐の高さを、患者自身の操作によって自由にセットできる装置を試作した。以下図 1.、写真 1 及び 2 を参照されたい。